

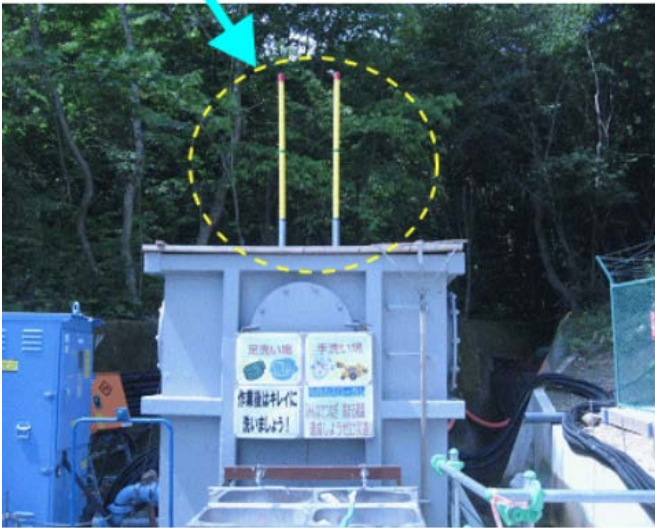
給水タンクの水量の見える化

内容)

トンネル工事では、坑内への給水のため大型の給水タンク（10m³ 長さ3.94×幅2.5×高さ1.6）を設置する。給水タンクの水量を確認するために高さ1.6mの水槽の中を覗き込むために梯子の昇降をしなければならず、それに伴う転落・転倒のリスクがあった。

梯子からの転落・転倒のリスクをなくすために、ローディングパイプ（プラスチック製の筒）を使用し、釣りの浮きのような細工をし、遠目からでも水量が確認出来る様、水量の見える化を実施した。

黄色のパイプの出っ張り具合で
水位の確認ができるように細工



毎回梯子を昇って確認しなくても、水量が見える



単管パイプをガイドにし、その中にローディングパイプ（水に浮く）を入れる事により、水量によってローディングパイプが浮き沈みし、遠目からでも給水タンクの水量が分かるようにした。

